

令和３年度 第１回宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	令和３年度 第１回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	令和３年７月９日（金） 18時00分～20時00分
場所	宇治市生涯学習センター 1階 第２ホール
出席者	（委員） 榊原会長 萩副会長 丹羽委員 竹内委員 井戸本委員 内田委員 市橋委員 田中委員 清原委員 （事務局） 岸本教育長 伊賀教育部長 上道教育部副部長 林口教育支援センター長 栗田教育総務課長 山口学校規模適正化推進室長 吉田学校管理課長 齋藤生涯学習課長 金久教育支援課長 吉田学校教育課長 藤田学校教育課副課長 土井学校教育課総括指導主事 石田学校教育課学校教育指導主事
配付資料	令和３年度第１回宇治市小中一貫教育推進協議会資料 令和３年度「中学校ブロックジョイントプラン」構想図

１ 開会

- ・岸本教育長 開会挨拶
- ・各委員自己紹介
- ・事務局自己紹介
- ・設置要項に基づき、会長に榊原委員、副会長に萩委員を選出
- ・榊原会長挨拶
- ・萩副会長挨拶

２ 報告及び協議事項

（１）報告１ 令和２年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動概要

資料６頁に沿って事務局より説明

報告１についての質問・意見等と応答

（会長）

事務局からの報告について、新しい方もいらっしゃいますので、聞きたいことがあればお尋ねいただければありがたいです。あるいは昨年度関わってくださった委員の方もいらっしゃいますので、教えていただければありがたいです。

（委員）

私は広野中学校に視察に行かせていただきました。以前に行ったときに校長先生とコーディネーターに取組とかのお話を聞かせていただきました。中学校１つ、小学校２つで宇治ひろの学園というある程度カチッとされたところだったので、最初に行ったときにはそういう感じを受けました。

そして、２回目に行ったときは、やはり何年か経つと、先生方やコーディネーターの方が、徐々に進化しているという印象で帰ってきました。

（委員）

西宇治中ブロックを視察したのですが、コロナ禍で、全体会も無く、学力充実部、教育相談・特別支援教育、生徒指導部の部会に分かれて西宇治中学校と神明小学校と伊勢田小学校の３校の先生方が熟議されておられました。

その様子をそれぞれ、短時間拝見したのですが、たとえば生徒指導部とか教育相談・特別支援教育部では、児童生徒についていろいろな深い連携、協議をされておりました。

また、学力充実部では、特に開催が１０月の時期で、昨年度、小学校は成績評価２期制を実施する

中で1回目の通知表を作る時期だったので、中学校の1学期につけた状況を聞き、小学校なりに新たな指導要領のもとでの学習評価をどう展開していこうか、小小連携と申しましょるか、小学校同士で協議をし、中学校は今年度から改訂指導要領も全面実施ですから、それを聞きながら観点がこういうふうに変ったのだったら、学習評価の仕方も違うので、授業の中で子どもたちにどのような力をつけ、保護者に返していくのかということを知っていて、非常にいい交流をされているなと思いました。

教育相談と特別支援教育が一緒になった部では、ともすると不登校がクローズアップされるのですが、もちろん不登校の児童生徒に対するケアは大事なことです。今は発達障害等を抱える特別な教育的支援を要する子どもが通常学級でほぼ10人に1人といわれる時代ですので、小学校から中学校に情報がしっかりと移行していくというのは大事だなと、またその小学校に幼稚園や保育所から情報が移行していくのも大事だなと、さらには中学校から進学先に、なかなか個人情報の壁はあろうかと思うのですが、一定そうやってスムーズに連携していく中で、一人ひとりの子に応じた指導が展開されていくのかなということを、感心しながら拝見しました。

(副会長)

小中一貫教育の導入時にいろんな現場も見させていただいたときには、この先生は小学校の先生だな、この先生は中学校の先生だな、というのがありありと、われわれ一般の者でも見て取れたのですが、去年の先生方が協議されている場面では、どなたが中学校の先生かどなたが小学校の先生という、そんな意識といいますか、それが無く、皆が一体となって一つのテーマに取り組んでいらしかった。

その話し合いの中身がほんとうに、具体的かつ深まりを持った内容で話をしてくださっているということにおいて、昨年度までの9年間で着実に小中間の連携が積み上げられてきているなというのが実感できた次第です。

(委員)

去年の3月の時にも言ったのですが、ラーニングコーディネーターの先生とそれぞれの現場の先生が学校の授業の後いろいろな資料を作り、それでかなり大変な1年だったのではないかなと思います。それプラス去年度はコロナ禍で何かと初めてのことが多く、学校サイドもいろいろなことにストレスがあったと思うのです、それは1年ほんとうに先生方ご苦労様でしたということが一番感じていることです。

(会長)

ありがとうございます。ほんとうにコロナ初年ということで、いろいろと大変な感じでしたからね。私も行きましたけれど、おおかた皆様と重なることがありました。その上で、小中間のハードルというのがすごく下がってきたと思うし、委員がおっしゃったようにどちらが中学校の先生かなというのが、いい意味ですぐにわからないような状況も垣間見えたと思います。

その上で、やはり子どもの学力保障の核になるのは授業だと思います。授業は小学校と中学校で違うので、同じものにする必要は全くないのですが、教科の特性もあると思いますから国語の場合と英語の場合では、いろいろあると思うので、一概には言えないけれども、学んでいく子どもは常に連続しているわけなので、先生方の間で授業の在り方についてももう少し紹介というか、私はこんなことをやっていますよというのも大事な一歩二歩なのですが、ではそれがどう小中学校の間でつながっていくのだろうか、あえて喧嘩を促すわけではないのですが仕掛けを作っていて、違いは違いであっていいのだけれども、そこでつながっていることを示せば子どもはわかる。そういうところにチャレンジいただいてもいいのかなと。これはご期待も含めたお願いということになるのですが、そのへんは少しまだ、これからなのかなというのが私の個人的な受け止めとしてはあります。授業として、どう小中学校のカリキュラムとか具体的な指導方法とか互いの違いを認識しつつもどう小中一貫としてかたちにしていくのかというところがこれから考えていただくところなのかな、と思った次第です。

学校視察の話を、去年行った方々に聞いていたところですが、何か聞きたいことはありますか。

(委員)

子ども達同士も小中学校の連携ということで、中学生の子どもが小学校に行って本を読んであげたりということもあり、6年生の時には中学校の先生が来られて授業を体験することを、子どもを通し

て聞いていましたので、そういうところから小中一貫ということが少し根付いているのかなと思いました。

(会長)

なるほど、そこでどういうものかなというのを見せてもらう感じですね。

(2) 報告2 令和2年度小中一貫教育の取組到達状況報告

資料7頁に沿って事務局より説明

報告2についての質問・意見等と応答

(会長)

こんなふうに昨年度できたのではないかという事務局の提案、認識のお示しがあったと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員)

ラーニングコーディネーターの学校における役割がどういうものなのかという点と、各学校で決められているジョイントプランがどういうものなのか教えていただけないでしょうか。

(会長)

2つ目のジョイントプランというのは今年度のご説明の時にまた出てくるかも知れないので、1点目のラーニングコーディネーターの学校における位置づけについて、ご説明いただけますか。

(事務局)

小中一貫教育が始まりました当初は、小中のブロックの中にチーフコーディネーターを置いておりました。小中一貫教育の基盤となる小学校と中学校のつながり、小学校と小学校のつながりをつくっていく、教員の交流であったり児童生徒の交流であったり、そういう基盤をつくるのがチーフコーディネーターでした。

4年前からラーニングコーディネーターに変えました。先ほどから議題に挙がっておりました学力向上に向けて、基盤としてつくられたつながりから、さらに進んで学力向上を目的にそれぞれ、各ブロックに1名ずつ配置しております。

(会長)

昨年度はコロナが、2月ぐらいから学校的には、急速に広がって対応を余儀なくされた。こんなふうにやっていきたいなということが、相当制約を受けたはずですよ。

なので、到達状況という表現に含みこまれているのかも知れないけれども、こんなふうにやろうと思っていたのだけど、世界中の誰も予想しなかったのであろう大きな環境要因の変化によって、できなかったとか、変更を余儀なくされたとか、あると思うのですが、ここに書いてある分にはすごくスムーズに行った感じになっているのだけ。

もちろん感染防止対策とかは書いているけど、そこは別に、誰が悪いわけでもないの、こういうふうにやろうと思ったけど、やはり変更は仕方なかったとか、変更を余儀なくされたけれどもかえって良かったというような、新しい、例えば後で申し上げるのだけど、コロナをきっかけに遠隔授業とかね、要するにデジタル化、GIGAスクール構想にからむのだけど、それが一気に進みましたよね。その評価はすぐにはできないけれども、その新しいことが世界的パンデミックによって引き起こされた面があるとするならば、その状況に応じて目標なりその目標の修正変更というのは、あたりまえのことなので、到達状況というのは当初の予定通りに行ったということですか。

(事務局)

やはり当初の見込み通りには行っていないと思います。児童生徒の交流の行事というのは縮小されたかと思います。ひとつ例を挙げますと、6年生の中学校の体験の授業や、説明会がありますが、小学生が中学校に来られなかったということがありますが、逆に中学校の教員が小学校のほうへ出向きまして、中学校の生徒会の子どもたちが説明に行くことはできなかったのですが、ビデオ撮影を自分たちで企画して、考えて、中学校の紹介ビデオを作って小学校の児童に見せたとか、今までとは違った取組がありました。

小中学校の先生方の取組につきましても、ブロックで目的をもって課題に向けて取組を進めて、授業参観の交流というのをされていたかと思うのですが、教員が行き来することができなかったの、

それぞれの学校で取組を進められて、その中で今回、ラーニングコーディネーターが活躍して、小中学校のほうに出向いて授業参観や授業研究会に顔を出して、それをまた自分の学校に持ち帰るというような役割を担ったと聞いております。

(会長)

そういうことを書かれたらいいのではないですか。そのほうが、今年度を振り返る上でも礎になるだろうしね。委員さん、いかがですか。

(委員)

確かに小学生が中学校の説明会に来た時には、最初の頃は子どもと親御さんが一緒に来られているのですが、去年の場合には中学校の先生がそちらへ向かったというご説明をされたのですが、なるほど、その通りだったなと思いました。僕も会長が言われたようにうまいこと、スッと終わっているなと思いましたもので、今説明されて、少し理解できました。

(会長)

コロナに合わせたわけでもなかったかも知れないけれど、広野中に伺った時に、玄関のところに大きなテレビモニターが置かれていて、生徒さんの様子、何かの大会とかに出られた時の様子や、活動の映像がずっと、アルバムみたいに写っていて、それは中学校内のことなので直接小学校向けではないのですが、そういう一種のテクノロジーを使って、学校がいいところだなという雰囲気を出すというかね。

それはやはりコロナ禍でも対応できるし、例えば、今年度の話になるのかもわかりませんが、小中学校で、直接会うことも素敵だけど、仮に感染防止の観点から制約も伴いますから、遠隔的な関係でも近くに感じられるというのは、一つ魅力と事務局がお考えなのだったら、そういう方法も、コロナの環境下ではチャンスであると。ピンチがチャンスになると考えて、やって行こうかという提案をいただいてもいいと思うし、昨年度のことなのですが、評価のあり方についてはまた、何と云うか少しご意見を頂戴して、最終版を出していただく方向で、今日でこれは完成ではないと思うから、そんな感じで進めていくということでもよろしいですかね。

それでは、先ほどの話と重なるところがあるかも知れないのですが、できたのかも知れないけど難しかったのではないのかというご意見、特に昨年委員さん、ご意見を頂戴できますか。

たぶん6年生に中学校のことを紹介する場面が無かったことは残念だったんですけど、ビデオ紹介とかは限定してできたのだろうなというそういうかたちで進めていけるのかなと。

ご意見をおっしゃってください。あるいは、学校側としてどうかということでも結構です。

(委員)

やはり例年と違って、我々にとって大きかったのは、全国的な学力調査が中止になったということで、それまで積み上げてきた学力分析ですね、これは個々のこともございますし、全体の傾向という点でも、いったんそれが途切れたというのが非常に残念でした。

(委員)

その分析によって例年でしたら2学期以降の対策を考えていったのですが、それが途絶えたということですね。

ピンチがチャンスというお話がありましたが、いわゆる一堂に会して交流するということができなかったことが多かったのですが、例えばICTを活用して、本学園で一例を挙げますと、いわゆる児童会、生徒会、本校はトータルで学園会と言っているのですが、この選挙の立会演説会を、Zoomを使って、各教室で身近に、間近にとらえることのできる状態を見て、教室で投票箱をそれぞれ置いて実施したということもありましたので、学園の中だけの話ですけど、それはおそらく、上手にすれば学校間でも、今は1人1台端末などのネット環境が整った上で提供されていますので、まだまだ開拓の余地があるのではないかなと思っています。

(会長)

昨年度の経験をお話しいただけるとありがたいと思います。学校の場合、ある程度制約された環境の中で少し芽というか萌芽というか、変わったところがあったら。どんなふうに受け止められたかをお願いします。

(委員)

昨年度は木幡中学校ブロックにおきましては、3回、一堂に会する研修会を予定していましたが、緊急事態宣言ということで、結局1回だけしか集まることができなかったのです。その1回も木幡小学校の授業公開と、その後各教科部とか、話し合う場をもつ予定でしたが、参観もできませんでした。

夏の研修会も講師の先生に来ていただいて、木幡中学校の体育館でみんな集まってというのが最初の計画でございましたがそれも叶いませんで、木幡中学校で校内研修というかたちでされていた映像を撮っていただいたものをCDに焼いてもらってそれぞれの学校で見て、個別の研修会といったかたちになりました。

本年度につきましても、夏の合同研修会につきましては、木幡中学校で講師の方に来ていただいて講演会をするのですが、職員が体育館に皆集まると密になるというのを防がないといけませんので、それぞれの教科別の部屋に集まって、そこで映像を生で見て、その後それを元に研修をするとか、そういうかたちで計画しておりまして、木幡中学校でどういうふうにしたらうまいことできるかなということを検証していただいているところです。

(会長)

そうですね、GIGAスクール構想が一気に進んだようで、総じてデジタル化というのがいっぺんに身近なものになっていったと。だから黒板とチョークと教科書があったら授業ができるというのは、だんだんもう博物館入りするという世界になりつつある中で、そういう環境が育っているということはあらためて認識させていただいた、時期にあたるのではないかなと思っています。

そういう時にテクノロジーの力を借りながら有意義にまた楽しく勉強ができるように環境を整えていくということができれば、小中一貫にももちろん資するところがあると思います。

そんな、芽が出てきたのではないかなと思うところで総括をしていただければより本年度につながることになるのではないかなと思っています。

(事務局)

会長はじめ各委員様からご意見を頂戴いたしましたので、令和2年度小中一貫教育の取組の到達状況につきましては、会長とも相談させていただきまして、また提出させていただきたいと思っております。今回の会議録等をお送りする際に改めたものをお送りすることを考えておりますので、またよろしく願いいたします。

(会長)

委員の皆様からご意見を頂戴して、出たものを盛り込んでいただくということでよろしく願いいたします。

(3) 報告・協議3 令和3年度小中一貫教育推進協議会の活動について(案)

資料8頁に沿って事務局より説明

報告・協議3について質問・意見等と応答

(会長)

アンケートというのも、去年はなくて、その前くらいはあったと思うのですが。あれはどういう扱いになっているのですか。

(事務局)

本年度もアンケートは計画しておりませんが、何らかのかたちでアンケートを実施していかないといけないと思っております。

(会長)

それは事務局にお任せですか。それともこちらのほうで少しご意見とかを頂戴して、みたいな感じでやることになるのでしょうか。

(事務局)

ご意見が頂戴できればいいというふうには思いますが、進め方等については、まだ計画の段階です。

(会長)

もし考えておられるのだったら、もう1回集まる必要があるのかどうかとか。スケジュールに関係しますよね。あるいは、それこそメールでいいですということなら、それでもいいかもしれないけど。

あるいは、全員の方に集まっていただくのは難しいかもしれないのだったら、少し大げさだけどワーキングということで数人のメンバーでご意見を出してもらおうという会をもつとか。何かそういうアイディアは今あるのですか。

(事務局)

アンケートにつきましては、まず送付の事務が、以前やっていた手法でやりますと、事務局がたいへん負担になってきますので、その方法を今から考えないといけないかなと思っています。デジタル化が進む中でどういったものができるのかということを含めての検討になりますので、今現在の段階で委員様に何かをお願いするということは、難しいかなと思っております。

例えば項目を設定する際には、こういう項目があったらいいのではないかということのご意見をお伺いすることはあるかと思います。そのためだけに集まってもらうことは今のところ検討はしていないというところでございます。

(会長)

アンケートというのは、児童生徒さんと親御さんに、小中一貫の様子とか受け止めとか、中学校に上がる時不安がありますとか聞くのをずっとやっておられたのですね。だいたいデータもたまってきたので、だいたい毎年の傾向もわかって、見えてきたことであったけれども、ご報告待ちということで、よろしいですかね。

(委員)

何か新しい提案があればということなのですが、昨年この会議を2回されて、視察に行かれて、これは例年ずっと同じような流れなのですかね。今回何か縮小したというのは別に無いのですか。

(会長)

昨年度は新型コロナウイルス感染防止で、相当学校におじゃまできるチャンスや選択肢が減ったということでした。いろいろな感染予防とかがあって難しいことがあったということと、あとは一昨年来まででしたか、気軽な学校訪問ということで、午前中だけ少しおじゃまするとかも結構ありましたよね。

どんな感じで質問させていただければ、取組を見せていただいてご意見を寄せてもらって、または感じられたことを申し上げられやすいかな、いう感じになりますかね。あるいは学校ではこういうかたちにしてもらえればいいのだけど、とかこういうのは嫌だなとか、今からのことなので。

(委員)

テーマを、地域とのつながりと言うことで今年度書いてくださっているの、それについてです。

昨年度はコロナの関係でほんとうに地域とつながれなかったのです。今年はそこを一步乗り越えてできないか、難しい中ではあるけれども、学校がどう地域とつながって、そして9年間どんなかたちで、というところをたぶんテーマで挙げておられるのかなと感じるところです。実際に学校現場としては、どこまで地域とつながれるか、もしうちのブロックに視察に来られたときに、どういうことができるかなというのは、あまりイメージが湧きにくいところではあるのですが、少しずつ、つながっていくスタートのところを見ていただくという話になるのかなと、イメージを湧かせていきたいところなのです。

(会長)

(2)のところはきっと、議題の4番目のところに関わるというところの理解でよろしいですか。まだ、特にはご説明いただいてないですね。

学校側としては、こんな感じでやってもらったらいいとかありますか。

(委員)

今年地域とのつながりをテーマにされているというのは、おそらく今、宇治市が学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進、これに重きを置いていることの表れなのかなと勝手に思っていたのですけど。

現段階では、研究校が先行して動いているところが、お見せできるのは今、夜の会議くらいしかありませんし、ただこれが、令和4年度を迎えたら、子どもたちの取組も、地域と学校が一体となった取組になり、それから次年度はちょうど周年記念事業を迎える学校が数校ありますので、きっと、学校と地域が連携して、子どもたちも巻き込んだものが現れる。それで、他校は単独ですけど、うち

についてはそれを小中の連携したかたちでお見せすることができるというふうに思いますので、また違ったかたちで次年度についてはご披露できるのではないかなということを推測しております。

(会長)

そうですね、それでは次の議題で具体的に、この小中一貫教育に取り組まれている学校におじゃまするとかをお聞きしてから、またご意見を頂戴しましょうか。では次にまいりましょうか。どうぞ、お願いします。

(4) 報告・協議 4 令和3年度小中一貫教育の取組について

資料(9頁～)により事務局より説明

報告・協議4について質問・意見等と応答

(会長)

到達目標も、昨年度の評価の続きということになると思うので、また新しく出していただくということですから、それとも関連するかもしれませんが、たたき台は出していただいていたかね。

(委員)

私はたまたま去年も委員をさせていただいておりましたので、今日こちらに向かう前に去年のものと見比べてみたのです。そうしたら、特に到達目標の両括弧の1のところが、若干加筆されておまして、なるほどと思ったところがあります。

その1つは、ラーニングコーディネーターの立ち位置をより具体的に書かれているなと思いました。有効に機能させて各ブロックの課題を焦点化して取組を立案する。そしてカリキュラムマネジメントの視点を取り入れた云々という。今、私が読み上げたところは、去年無かったところですよ。ですから、特にラーニングコーディネーターをもっともっと各校の学力向上に効果的に活用しなくてはいけないという、市教委のメッセージだろうし、また、現行学習指導要領に現れているカリキュラムマネジメントの視点を取り入れるということも強調されているのだなということを拝見しました。

それで生徒指導の部分も、教育相談体制を強化させるというところが加えられていまして、特に生徒指導の中の不登校対策、かなり児童生徒の不登校状況も深刻な状況になっている中で強調されているなというところで。

去年とほとんど変わらないのではないかなというふうな気持ちで拝見したのですが、令和2年度から令和3年度にかけて事務局のほうに気持ちを入れて方針化されているなというところで、これも感謝させていただいたところですので、ご紹介いたします。

(会長)

なるほど。いかがでしょうか。

重ねて昨年度の評価というか、総括と関連しますけど、誰も先のことはわからないけれど、とりあえずこんな感じでマスクをして皆、喋っているわけですよ。こういう状況がしばらくまだ続くのではないかと、ということであれば、どう形容したらいいですかね。まあ、あまり頑張らなくてもいいのではないかなと、あまり無理をしないでというところも心情的にはあるのですが、保護者の立場としてはどうなのですか。

(委員)

子供たちもまだまだ制限を強いられている中なので、いきなりどうこう変えられるわけではないですし、ほんとうに直近としては修学旅行をどうするとか、延期、延期、延期というところもあるので、根を詰めてするというよりは、気楽にというところと、逆に言えばICTとかを活用して小中の中でうまく連携していけたら、一番いいのではないかなと思います。

(会長)

先ほどのデジタル化というところで、目に見えて動くと言うところではいろいろな制約がおそらく付くと思うので、なかなか動きたくとも動けないというところを伴うと思うから、例えばですけど中学校で、小学生に向けたオンデマンド教材をちょっと、作りはじめてみないかとかね。

そうすると表向きは派手さがないですけど後からじっくり効いてくるような。知っている先生が喋

っているわとか。そういうバックヤードというか裏庭みたいなところで力をためていただくという時期であってもいいのかなという気がします。

(委員)

令和2年度の到達目標のところの3番、家庭や地域との連携のところ、これは令和3年度のところにもあるように広報紙、学校ホームページの活用というところが、拝見した中で、私も恥ずかしながらあまり自分の小学校のホームページも、このP T Aの役割をするまで、あまり見たことがなくて、たぶん、学校のホームページは各校作られたところではあるけれども、行政のホームページというのは、意図的に見に行くということがあまりないのかなというところがあって、それをどう届けていくのかというところに何かしら工夫がもしあれば、特にこのコロナ禍において、情報発信のところでホームページというのは、すごく重要な役割をされているのかなと思うのですが、ホームページを各家庭に到達させるための工夫とかがもしあれば、ちょっとお聞かせいただきたいなと思います。

(会長)

我田引水ですけど、少しバックヤードっぽいですよね。直接何かこう元気な活動というわけではないけど、しっかり支えているというようなことですよ。ありがとうございます。

ラーニングコーディネーターの活躍を期待されているのですが、どうですか。そんなに無理を言わないでいてとか思われますか。

(委員)

前任校でも小中一貫のコーディネーターの役割はさせていただいておりました。ラーニングコーディネーターというのは今年度、初めて就いています。

前任校では3年間そのブロックのラーニングコーディネーターの方には本当におんぶに抱っこでお世話になったということをしごく痛感していて、ましてやここにこういう書き方がされていて、プレッシャーが半端ないなと今、感じていました。率直な感想になってしまうのですが、

ホームページのことは、学校独自で簡単にできるようなシステムにさせていただいたので、生徒の活動を、何とかして保護者に発信したいと考えています。特に、配信メールです。修学旅行の写真を保護者に届けるときに、配信メールを流しました。保護者は基本的に登録しているので、必ずどんな文書でも下にURLでホームページに貼り付け、そうすると行事の時とか、何にしてもクリックされるので、一気にポンと数字が跳ねて、見ていただいているのがわかります。

今年度の活動についてブロックで話し合ったときに、できることは限られているのですが、I C T、i P a dの活用が進んでいたのも、夏の研修では、教員が一堂に会することができないので、I C Tを使った実践報告をZ o o mでやってみようかということになりました。今年の活動はI C Tに一本化して、I C Tと指導と評価の一体化ですか、駆使してやっていこうかという話はしていました。

昨年度前任校では、中学校での授業体験と部活動体験が無くなったことが、児童にとっても抵抗が大きかったということは聞きました。こちらのブロックがどういうふうにしていくのかはまだ検討中ですが、できる限り無くさないようにしてあげたいというのは、感じています。

(会長)

やはり、直接見聞きすること、体験することが大事になってきますからね。I C Tとかウェブとかデジタル化の話になってきますけども、つい先日、京都教育大学で京都府の地方教育センターと京都市地方教育センターの所長さん方の合同会議があった席で出た話なのですが、教員がタブレットなり何なりI C Tを使う変化の中で、先生方自身が子どもの頃にそういう授業を受けていないので、子どものほうが上手に使えたり、もうスマホ1個で動画を作ったりアクロバティックなことをしてくれる子もいるらしいのですが、そういう状況にある。さらに、先生方を指導する指導主事も当然その授業を経験していないので、自分でやっていないことを先生達にこうしなさいとか言えないところがあって、結構な課題なのですよという話を聞いて、なるほどな、と思いました。だからちょっと自分に引き付け過ぎかもしれないけど、バックヤードで力をためていくみたいな発想で考えていけるのであれば、先生方がそういう新しい環境について学ぶ機会をよりもつということも、華々しくはないけれども、じわじわ効いてくる小中一貫の底力になるはずで、そういうところも注目いただいているのかなというふうに今、思っています。

子どもさんにこうしてあげたいとか、こういう場を設けたいということもありがたいのですが、重

ねて言いますが限界制約も大きいでしょうから、華々しくはないけれども、データベースとしての学校を構築していくとか、ホームページのお話もしてくださったけど、発信が進んでいくことによってより理解が深まっていくとか、ということも考えていいかなと思いました。

最後ですけど、ICTの活用ということもその会議で出まして、発言があって、ICTの活用と言っている時点でもう、負けていると言うか終わっている、という話がありました。どういうことか、と聞いたのですが、今の子どもたちには、当たり前こういうものがある、タブレットなどがあるのが当たり前だから、活用と言ったら何か今からやるぞという感じですよ、一世代前だったら勉強するのに鉛筆を活用するとは言わないでしょう。だからそれはすごくおかしいことなので、活用と言っている時点で時代に追いついていないという考えで、ごく自然に使えるように、そういう意味では何というか気を張って「タブレットを使って授業しなあかん」とあまり考えないで。でも机が狭いからタブレットを置くのもけっこう大変らしいですね。そういう鉛筆やノートみたいな感覚で使えるように授業を構想していく必要があるだろうし、ということもちょっと言われていて、おもしろいなと思って聞いていました。

(委員)

到達目標の両括弧2の、宇治学に言及されているところなのですが、宇治学のところの3行目の「児童生徒が探求的な学習を進められる展開」の、「探求」の「求」という字が、「求める」よりも「究める」の「究」のほうがいいのではないかと。

理由は、1つは宇治学の副読本の指導書には、たぶん「探究」というのは「究める」の方でまとめておられると思いますし、高校の領域、総合的な探究の時間もその「究める」の方で領域も定まっていると思いますので、そちらの方がいいのではないかなと。

(事務局)

間違えております。「究める」の方です。

(会長)

教えていただいて、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

では、具体的な我々の活動ということになると思うので、5番ですね、ご説明くださいますか。

(5) 委員による視察について

別紙より事務局より説明

質問等に応答

(会長)

もう少しご説明いただきたいのは、小中一貫教育推進の上で、この「地域とのつながり」というのが、今年度の目標というところ言えば(3)くらいが中心になるのですかね。位置づけとか、あるいはこういうつながりを狙って、地域ごとに当然特色はあると思うのだけど。そのあたりはどういう感じですか。

(事務局)

今までには、小中の先生方の実践を視察していただき、児童生徒の取り組んでいる活動を見ていただくことを考えておりました。地域の方にも子どもとの関わりをもっていただいて、その中で子どもが育っていく姿を見ていただけたらと考えました。

(委員)

実は、去年の最後の会のときに、榎島中ブロックがやっているSDGsの「服のチカラプロジェクト」というのがあるというのを、聞きまして、持ち帰って調べさせてもらって、笠取小学校でもどうかと話をし、やっていたきました。これもやはり、ここで紹介していただいたからです。具体的に、最初行くと抽選で講義に来てくれるとか、取組に参加できるみたいな話があり、抽選が当たりまして、今度13日、講師さんが説明に来られます。

(委員)

規模は小さいですけど、やはりこういう取組をされているのを見させていただいたというのが、ほんとうにいいことだなというのを思います。地域を巻き込んでというパターンが、やはり一番僕も賛

同できるかなと思っています。

(会長)

わかりました、ありがとうございます。

(委員)

質問なのですが、3番と4番は中学校が継続してとか、連携しているとかの取組は無いのですか。

(事務局)

まだ、確認はできていないところです。例えば南小倉小学校の地域ボランティアの方が西小倉中学校にも行ってやってらっしゃるかとか、もしご存じのことがあれば教えていただきたいです。特に中学校との関わりは、今ここではお伝えできません。

(委員)

3番の南小倉小学校のサツマイモ収穫とか、実は私たち青少協の行事でありまして、コロナの前までは西小倉中学校の、野球部やバスケット部の何組かに、お手伝いに来てもらいました。この焼き芋パーティーは初め、小学校だけだったのですが、その後は、部単位で、応援というかお手伝いに来ていただいて、子どもたちと一緒に焼いたり、その後一緒になって体育館で遊んだり、そういうふうな小中としての取組というのは、コロナの前まではずっと続いていたのです。

サツマイモの取組に関しては地域ボランティアの方は西小倉中学校の方には行っておられない。南小倉小学校だけの担当をされていたと思います。

(会長)

木幡の地域がどうこうではなしに、地域の方を含めての行事を、小中の全員ではないかもしれないけど子どもさんが集ってというかたちは、学校経営的には組みにくいですかね。

(委員)

人数の問題でありますとか、それぞれの狙いがありますとか、小学校にはこういう狙いで来ていただいて、一緒に学ばせていただく。中学校は中学校の狙いがあると思いますので、そういうものを模索していくというのは大事なかなと思います。現状としては、地域のイベントみたいなものに小学生も中学生も参加させていただいて、そこで一緒に何かするというものです。

宇治中学校ブロックでは、地域で年に2回大きなイベントをされますので、そこに中学校の生徒と、小学生も参加するというかたちのものが地域の方とのつながりというのでは実際にやっておりました。

(会長)

学校がセッティングするというよりも、地域の行事があつてそこに寄せさせてもらうというような感じのほうがりやすいというかイメージがつきそうですね、わかりました。ありがとうございます。

(委員)

実は木幡中学校で、地域の方とか先生方で、いつも祭りを11月にさせていただいているのです。「おもろいやんか木幡」という会なのですが、私の所属している青少協と一緒に関わらせていただいて、実行委員会に、小学校の方とかも一緒に入ってもらって、1からやるというパターンにしています。コロナの前の話ですが、幼稚園から大学生までがつながるということをやろうとしていた矢先なので、今はもうできなくて、はがゆいですね。

先ほどコミュニティ・スクールの話もありましたが、今は皆さんちょっと我慢してやっている最中だと思うのですね。今まで通りのことはできないかもしれないから、何かみんなのできるようなものを創り出すというか編み出すということを模索している最中です。

(会長)

小中一貫というと、もちろん学校がメインであるわけなのですが、それを下支えというか基盤的に、いつもいてくださる地域社会ということで、これまでやってこられたことも踏まえてつながっていったらいいなあという感じがしました。

(委員)

4つともすごく楽しそうというか、非常に興味のある取組をされているなというところです。槇島中学校は先日PTAでもお聞きすることがあったので非常に興味があります。

(会長)

服の力プロジェクトのほうですね。

(委員)

はい、服の力プロジェクトの感想でございます。

(会長)

地域とのつながりというところで小中一貫の下支えと言っているのかわからないけれども、一つの重要な環境というところを拝見させてもらうことにしましょうかね。

本年度の推進協の活動についての(2)の、プロジェクトチームの設置ということについて、何かご説明はございますか。

(事務局)

プロジェクトチームの設置につきましては、今現在事務局ではあらためては、特にはございませんが、委員の皆様のご発議ご要望があればということで、また検討してまいりますので、よろしくお願いいたします。

(会長)

例えばさっきお伺いしたアンケートのこととか。

(事務局)

アンケートも必要があるということであれば、また検討させていただきます。

(会長)

では8ページの(3)のところについて、何か、こういうことをやったほうが良いのではないかというご意見がありましたら、事務局にお寄せいただいて、全員とはいかないと思うのですが、少しミニチュアサイズで議論をするみたいなこともあっていいのかなと思います。これまででも全体会が3回あった年度もありますので、必ずしも2回でガチッというわけでもないで、そこは柔軟に構えて、意見交換できればいいと思いますので、またご提案ください。

最後に「その他」ということで、お願いします。

(6) その他

事務局より「西小倉地域小中一貫校開校準備協議会について」説明

質問等に応答

(事務局)

第3回の協議会ということで7月7日(水)にさせていただいて、第2回に示させていただいた資料と説明に対してのご質問とかご意見があったところでございます。どういったご意見があったか申し上げますと、西小倉小学校にすでにもう雨水施設がございますし、維持しようとする先行統合が避けられないというご説明をさせていただいたのですが、西小倉中学校での開校ということが色濃くなってくるわけですが、それを前提としてのご意見といたしまして、交差点の整備をお願いしたいというのが4委員くらいからございました。

あとは通学路の安全対策ということで、北小倉小学校が中学校になると一番遠くなりますが、その安全対策をお願いしますということが4委員からご意見がありました。

また、多様な活動が当然一貫校ですので必要なもので、広い敷地の開校場所を要望するご意見が4委員からございました。安全面以外に、子どもさんが長い距離を歩くという意味でありましたら、1.9キロということで、実際には他にも宇治の中でそういった距離を歩く学校はあるのですが、これまでに比べると長い距離になりますので、リュックサックの重さも軽減してほしい、という意見も3委員からございました。

また、それ以外にも、西小倉小学校で依然として開校してほしいという意見もございまして、これに関しては先ほども申し上げたようにやはり先行統合を避けていきたいという中でなかなか難しいことはご説明させていただいているのですが、敷地をさらに拡大して西小倉小学校でやってほしいという意見が1委員からございました。

西小倉小学校を中心として西小倉中学校も第2グラウンドという話もありましたが、両方を活用すべきという意見も1委員からございました。

それ以外、いろいろな懸念点といたしまして通学距離の問題でありますとか、あとは開校場所をどうやって決めていくのだというお話でありますとか、または一貫教育自体がどういうメリットがあるのかということをもう一度しっかり伝えていくべきというような意見があったところでございます。

こういった意見に対しまして第4回の協議会で答えていく中で市教委としての方向性、どこで開校していくのかということを示していきたいと考えておりまして、次回7月の下旬を予定しているところでございます。以上でございます。

(会長)

何か確認ございますか。

相当なハイペースでやっていらっしゃる感じですね。

(事務局)

当初1カ月に1回ということをお願い申し上げていたのですが、実際にやろうとすれば緊急事態宣言が出て、それで実際緊急事態宣言中でもやったのですが、やはり仕切り直しとなりますと、また1か月を要しながら、実際間が空いたりしていますが、だいたい4回、予備を含めて4回と考えておりまして、次が4回目なので、その中で決めていきたいということを第1回のお話させていただきました。

(会長)

最後の3回目のご説明の部分については、概略でけっこうなので、今日の議事録に載せていただきたい。最後のところくらいに、こんな感じの報告をしましたということ。全部は書き取りできないので。お願いしてもいいですか。よろしくお願いします。

では、全体を通して何か、これだけは言っておかないと帰れないということがありましたら、しばらくお会いできないので。いかがでしょうか。

以上を持ちまして審議・報告を終わりたいと思います。

(事務局)

＊事務連絡事項の説明＊

本日の議論につきましては、冒頭にお話した通り、要約という形【会議録】で作成します。また、内容を整理した上で各委員のほうに確認していただきますのでよろしくお願いします。

3 閉会

伊賀部長より閉会の挨拶